

まえがき

2008年6月14日8時43分頃、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード（M）7.2（暫定値）の地震が発生した¹⁾。本地震による最大震度は、岩手県奥州市及び宮城県栗原市で観測された震度6強である。同日、気象庁はこの地震を「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」と命名した。本震のマグニチュードが同程度の1995年兵庫県南部地震（M7.3）や2000年鳥取県西部地震（M7.3）と比較すると、今回の地震の余震の発生回数が多いが、大規模な余震は少なく、11月17日現在、最大震度5弱以上を観測した余震は、宮城県大崎市で震度5弱を観測した6月14日9時20分頃（M5.7）の1回である。また、消防庁の取りまとめによると、11月17日13時0分現在、地震による死者は13名、行方不明者は10名、負傷者は451名、住家被害は、全壊33棟、半壊138棟、一部破損2,181棟に上っている²⁾。

今回の地震は2004年新潟県中越地震と同様に山間部を震源とする地震であり、多数の斜面崩壊や地すべり、また、大規模な河道閉塞が発生するとともに、建物や土木施設にも多くの被害が生じた。地震後、国土技術政策総合研究所、土木研究所、建築研究所及び港湾空港技術研究所では連携して、関係する分野ごとに国土交通省の緊急災害対策派遣隊（T E C - F O R C E）に参画するほか、自主調査チームを編成の上、6月14日から10月31日までの間に延べ155人の職員を順次派遣し、現地における技術支援、調査等に当たった。

本資料は、地震直後の現地調査結果、また、その後実施された調査・研究結果を現時点で取りまとめ、今後の更なる調査研究に活用できるようにするとともに、収集した調査資料の保存を図ることを目的としたものである。したがって、現在、継続中の研究成果の公表については、別の機会に譲ることにしたい。

参考文献

1) 気象庁ホームページ：

http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/2008_06_14_iwate-miyagi/index.html

2) 消防庁ホームページ：

<http://www.fdma.go.jp/detail/811.html>